2025 年 2 月

気象と気象用語

松山地方気象台

【2 月の気象】

２月は「雪解」「水温む」など、冬から春に向かうことが伺える季語が多くありますが、２月上旬は１月下旬から続く１年で一番寒い時期です。暦では節分（本年は２月２日）を迎え、翌日の立春の名のごとく春へと進み始める頃となります。月の後半になってくると日本の南岸を通過していく低気圧（南岸低気圧）の影響で大雪になることもあります。

また、２月の季語にもある春一番が吹くことがあります。低気圧が日本海を発達しながら通過すると、強風とともに、気温が上昇することもあります。

四国地方における春一番は以下を基本として総合的に判断しています。

① 期間は、立春から春分までの間。
② 低気圧が日本海付近にあって発達し、南寄りのやや強い風が吹く（最大風速：概ね 10 メートル以上）。
③ 最高気温が前日より高くなる。

近年の四国地方の春一番の発現日

年	月日
2024年	2月15日
2023年	2月19日
2022年	－
2021年	2月20日
2020年	2月12日

「－」は発現しなかった

「春一番」が吹いたあとは冬型の気圧配置となる場合が多く、一転して北から寒気が流れ込むため気温の寒暖差が大きくなり注意が必要です。

２月は、気温の変化（寒暖の差）が大きくなる月です。農作物の管理には、週間天気予報、１か月予報及び２週間気温予報、早期天候情報等を活用してください。

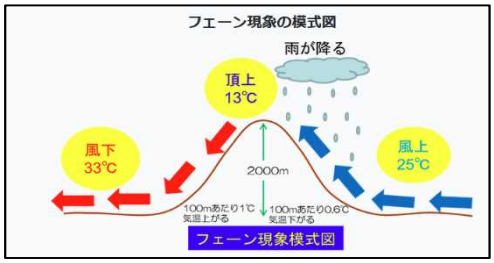
【気象用語】「フェーン」について

２月の季語に「フェーン」があります。フェーン（現象）は風が山を越えて、斜面に沿って降りてくるときに、山の降りた側で気温が高くなる現象です。

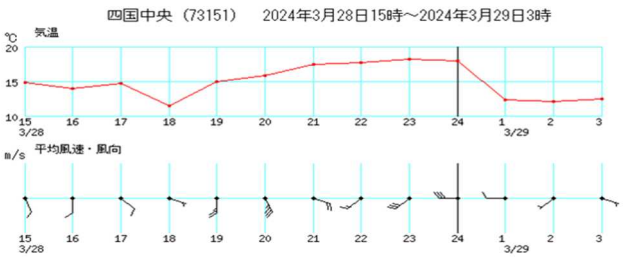
フェーンには「乾いたフェーン」と「湿ったフェーン」があります。乾いたフェーンは、上空の比較的温度の高い空気が山の斜面に沿って降りてくる現象です。一方、湿ったフェーンは、風上側の湿った空気が斜面に沿って上昇するときに空気が飽和し雲ができ、雨となります。その際に熱を放出します。このため、空気は 100m 上昇するごとに 0.6℃の割合で気温が下がり、地上で 25℃の空気が頂上（2000m）では 13℃となります。頂上から下降する場合、空気は乾燥しているため 100m 下降するごとに 1℃の割合で上昇し、地上に降りた時には 33℃となります。山を上昇する前より、気温が 8℃上昇したことになります（第１図）。

愛媛県では、日本海に低気圧が進み、南風が吹くときに、瀬戸内側でフェーンが起こる場合があります。最も顕著に表れるのは東予で「やまじ風」が吹くときです。やまじ風は高知県側から四国山地を吹き降ろす強風で、フェーンを伴います。第２図に 2024 年３月に発生したやまじ風の時のアメダス四国中央の記録を示します。南風が強まる 18 時過ぎから夜間にもかかわらず気温が高くなり、風が西風に変わりフェーンが収まった 29 日０時過ぎから気温が下がっているのが分かります。

フェーンは気温が高くなるだけでなく乾燥した強風を伴います。このため、日本海側では大規模な火災も発生しています。フェーンが発生した場合は気温だけでなく、強風に対する備えや火の元にも十分注意してください。



第１図 湿ったフェーン現象の模式図



第２図 アメダス四国中央の気温・風向風速時系列